嬉泉の新聞

・嬉泉の新聞／第43号／2000年（平成12年）5月発行（年3回発行）
・発行所＝社会福祉法人嬉泉
東京都世田谷区船橋1－30－9（〒156-0055）　TEL 03-3426-2323
ホームページアドレス　http://www2s.biglobe.ne.jp/~kisen/
メールアドレス　kisen@mxg.mesh.ne.jp
・発行人＝石井哲夫　　・編集人＝五十嵐猛

自閉症児対応シッターサービス準備に当たって

㈱ポピンズコーポレーション・代表取締役　中　村　紀　子

当社は、「母と子に優しい街づくり」、「働く女性の育児支援」及び「高齢者介護」を使命に、開業14年目を迎えております。ポピンズコーポレーションの名前の所以は、イギリスのナニー（教育ベビーシッター）、映画の「メリーポピンズ」に因んでおります。映画の中で、根気強くも愛情深く子どもたちを楽しませながら絵や音楽、マナーを教えるポピンズの名シーンは多くの感動を呼びました。私達は、在宅保育サービスを開始した際、単に子どもを安全に一定時間預かる“ベビーシッターサービス”に留まらず、ご両親の教育方針を尊重しながらも、教育、躾ができるプロ＝ナニー（教育ベビーシッター）の養成から始めました。

108年の伝統を持つ、英国のナニーの養成校、「ノーランドカレッジ」と8年前に提携し、カリキュラムを導入した独自の養成講座「ポピンズナニースクール」を全国28ヶ所で一般公開しております。保育・教育・看護関係の資格をもつ者が7割を越え、更に当講座で60時間、在宅保育に必要な知識を習得してもらい、全国6千名のポピンズが誕生しております。

現在では、在宅保育サービスの他、保育所運営（全国20ヶ所）、高齢者介護サービスまで全国的に展開しております。在宅保育サービスでは、最新のＰＣシステムを効率的に活用し、ベテラン顧客スタッフによるお客様対応で月間2万件を越えるご利用を頂き皆様に喜んで頂いております。

社会福祉法人嬉泉・石井常務理事には、白梅学園理事山田美和子先生を介しご紹介いただいており、いつも暖かいご支援・ご鞭撻を頂いておりました。そんな折（半年前）、直々にご相談をお受けいたしたのが、「自閉症児対応シッター」についてでした。

昨今、施設をご利用のご両親から送迎・在宅保育サービスのニーズが高まってきているとのこと。常務理事も、ご両親の代わりに専門業者がお世話することで、精神的にも肉体的にもご両親の負担が軽減され、誣いては日常の生活・育児の向上があるのではないか、と考えられました。

私どもは、障害児のお世話に関しては未経験でしたが、研修システムの構築とO.J.Tにより当社の使命を果たせることと考え、嬉泉様より研修カリキュラム、自治体交渉を含め多くのサポートをいただきながら、プロジェクトを進める運びとなりました。「子どもの生活研究所」の世田谷区より、サービス内容を当面限定した方法で今年度中開始を目標としております。また、将来的には全国対応ができるよう、シッターの養成指導員、更にはご両親に適格なアドバイスをする相談員を養成研修したいと考えております。

一人でも多くの方に、2000年誕生予定の「自閉症児対応シッター」をご検証いただき忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いと存じます。

社会福祉の大衆化が始まった。介護保険の導入によって、ホームヘルパーの資格を持つ中高年の人たちが、自発的に地域の介護を必要とする人たちへの介護を始めた。

そして、この人たちが、高齢者といっても自分たちとそう変わらない人たちの援助を始めてから寄せられている感想が実に明るく暖かい隣人愛に溢れたものだったのである。

このことは関係者たちが力説していて、私も信じていた社会福祉改革のねらいなのだという事が確かめられ、感動を覚え、我々のように今、福祉援助を本業としているものたちは、いっそう奮起しなければならないと想っている。我が国がこの様な状勢にありながらも社会福祉施設の統合再編成を行わないでいる国柄を、社会福祉施設関係者はどう考えているのであろうか。私は社会福祉施設に対して好意的であるからであろうか、外側に現れてこない我が国の国民性ともいうべき、人に対しての情緒的な肩入れが利用者やその家族の信頼を克ち得ているのではないかと思っている。もしどうしようもない救いのない社会福祉施設とわかりながら、我が子や我が親を入所させているものがあれば、これを改善していかなければならない。

さてそうであるからといっても今の社会福祉施設の処遇職員に関していえば、街で介護を自発的に行おうとしている人世の先輩に対して、自分が職業人としていかなる研鑽や精進を積んできたか、また自分のしていることは専門職といえる実践であるのかを率直に顧みる必要があるのではなかろうか。

あえて言いたい。もし日頃社会福祉援助は理論や技術よりも「心が大切である」と言っているとすれば、その心を培う上で何事かを特に努めて行ってきているはずであろう。

かつての社会事業家達が自分を無にして、利用者と生活を共にしているということを知っているだけに、慈善事業を理念的に否定してきている現代の実践家たちは、自分の内面の心理学的な事実に対して、鋭くメスを入れていかなければならない。

此処に公益学の必要性を説く学者達がいるということを紹介しておきたい。

社会生活を公益性の観点から眺めてみると、昔から多くの人や行政当局が、住民の福祉のために公益的な見地に立って、仕事をしてきたことがわかる。そういう目で見た場合には人の住む環境についても企業はもっと公益性を持った仕事の進め方が出来たと思うがどうであろうか。今社会福祉にも企業が参加してきているが、恐らく公益性に関しても企業努力が行われてくるという予想が立つならば、今こそ社会福祉法人参加の社会福祉施設が積極的に自己表現していくときではなかろうか。それは企業の真似をすることではなく、社会福祉法人の特色を生かした社会福祉施設の運営の在り方を明確にしていくことではなかろうか。行っている事業の自己評価をきちんと行いながら、その施設における処遇理念やケアプランを示し、職員の業務や研修について独特の方針を打ち出すことが出来ないものであろうか。

実は今年から、直接私がリーダーシップをとって行っていることがある。その一つは、新しく今まで手を着けていなかった社会福祉的な観点から必要な仕事を探して行うという福祉活動センター「よろこび」の発足である。もう一つは子どもの生活研究所めばえ学園の職員に自分の担当するケースの親子や家族等の関係者ぐるみ責任を持たせるということである。このような改革は職員をして、この仕事に就いた原点への復帰としての公益的自己実現を図ろうとするものであり、今後この欄において社会福祉施設における福祉援助の私の実践改革を述べていきたいと思っているのである。

社会福祉援助論 (その六)

(福祉援助動機)

石井哲夫

私たちのしごと

須藤福祉センター各事業所からの報告

「赤塚ホームの緊急保護」

板橋区立赤塚ホーム　田中　慶子

赤塚ホームの緊急保護事業は、社会福祉法人嬉泉が板橋区より委託を受け、平成五年より始まり、今年で八年目を迎える。現在の登録者は、五百人余りにもなっている。緊急保護を利用される理由としては、板橋区内在住で心身障害児者を介護している介護者等が、疾病、出産、災害、冠婚葬祭、家族の学校行事により、介護が困難となった場合や介護者の休養（レスパイト）等があげられる。緊急保護のニーズは、年々高まっており、利用定員は、開設当時から昨年度までは、二名だったが、平成十二年度四月より五名（内、宿泊利用四名）となり、さらに、今年度中にもう一名増やす予定となっている。また、利用日数も今年度より増え、利用の幅が広がってきている。また、それにともない、職員数も前年度より増え、常勤と非常勤を合わせて十四名で運営している。

このように緊急保護事業が、拡大してきているなか、今年の四月より、緊急保護の仕事に関わらせていただいている。最初に、仕事の多様性に驚いた。利用される方々が、赤塚ホームでのひとときを、または、長期にわたって、安心して、気持ち良く過ごせるよう、適切な対応が個別的に必要となってくる。そのため、まずは、利用される方について、特徴や介護の仕方、配慮すること等を事前に資料等で把握する。生活面では、掃除、洗濯、料理、買い物、ベッドメーキングなど、雑多な細かい仕事が沢山ある。その他、利用登録面接や利用に関する様々な対応と書類作成、また、行政や学校、福祉園関係との関わり等々。そして、それらを円滑に進めるために職員間の共通理解、チームワークが要求される。本当に多様なことが求められ、目まぐるしく、慌ただしいというのが現実。そのような中で、それぞれの職員が、戸惑いながらも試行錯誤して、一生懸命に地道に関わってくれていることが本当に有り難いと感じている。それぞれの役割やチームワークを大切にしながらも厳しい目を持ち、皆で力を合わせていきたい。

今後は、利用定員の増員に伴い、設備、職員配置、医療的ケアなど、検討していかなくてはいけない課題もたくさんある。赤塚ホームに信頼を寄せてくださっている多くの方々に応えていけるよう、そして、さらに、利用される方々にとって、より良い緊急保護とはどういうものなのか、周りの皆さんと一緒に考えながら作り上げて行きたい。

緊急保護　談話室

職員の思い

赤塚福祉園

岩下　哲也

元々、引っ越しは好きではなく、ズルズルと8年近くお世話になっていた川崎寮を出ることになり、心機一転、4月から西武池袋線保谷駅下車、徒歩10分の所にある『大泉の家』の管理人として住むことになりました。『大泉の家』とは千葉の『つづきの家』にいる飯田真奈子さんの御両親が嬉泉に寄付してくれた、土地と家です。冬の合宿でも使ったことがあり、グループホームも出来るようになっています。

自分の所属する、授産のはばたきグループでは昨年度から身近なことから出来ることを中心に生活援助サービスを始めました。保護者や利用者本人の希望を確認して一緒に銭湯に行き衛生面での技術の向上の援助サービスや、一人暮らしをしている利用者には降園時間後、園に残ってもらい、普段一人暮らしで作っている料理を作り、その後、職員と一緒に会食しその時に料理について講評するなど、調理の技術援助など、まず手近で出来ることからの生活援助サービスをやりだしました。その流れの中で今年度に入り『大泉の家』の管理人になったということで、グループで『大泉の家』を『宿泊体験をする場』として活用する機会が持てるようになりました。新たな生活援助サービスに向けて動き出しました。具体的に『どうやって生活をしていく為の援助が出来るのか?』ということからの手探り状況でのスタートになりますが、まず各々の利用者にとって『何が必要で』『何が必要ではないか?』ということを職員間で慎重に検討すると共に、職員にとってあまり負担にならない程度に始めたいと思います。板橋区の他の園では取り組んでいないサービスとして、他の福祉園や、板橋区に対して将来的にいい刺激になる存在としてやっていけるよう取り組みたいと思います。そのことが、現時点における私の想いでもあり、グループとしての想いでもあります。

すこやか園

砂田　玲子

去年の6月、無認可保育室『子どものへや』が、認可保育園『すこやか園』になった。子どものへやに勤務していた私としては、規模が大きくなり、建物も新しく、そしてお預かりするお子さんの数が増えること、楽しい事や、嬉しい事ばかりを考えては、6月1日を心待ちにしていた。でも現実はそんなに甘くないとすぐに思い知らされた。子どものへやのときは全員で12～13人だったのが、すこやか園では担当するクラスだけでも14人。可愛いお子さんに変わりはないが「ふ～っ」と1日の仕事が終わると全身の力が抜けていく感じがする。〝一年目〟という理由を付けるのは自分の中だけで、保護者の方や、周りから見たら、一年目も何十年も続いている保育園も同じ保育園。「自分がしっかりしなければ」とか、「あれもして、これもして」と自分で自分にプレッシャーをかけたり、いろんな事を欲張ってやろうとするなど、自分の最終目標とする『とらのこのおばちゃん（とらのことは0、1、2歳児クラスの名前です。）』からずいぶんとかけはなれてしまったような気がする。お子さんが自分の事をふと「ママ」とか「おばちゃん」と間違えて呼んだときのお子さんの可愛い表情や、呼ばれた自分の嬉しいような不思議な気持ちをどこかにしまい込んでいたのかもしれない。こうやって書いていると自分のお子さんに対する気持ちがふつふつと沸いてくる。かわいくて愛しく感じるお子さんと一緒にいられる幸せ。この気持ちを常に忘れる事なくこれからも仕事をしていきたい。

ひかりの学園

黒田　信

平成11年の4月に子どもの生活研究所からのびろ学園に異動になり行事係りとなりました。以前から千葉の行事係りは大変だと聞いていて、会う人会う人に「千葉に来ていきなり行事係りとは大変だね」と言われました。しかし、本人はあまり実感がなかったのですが、始まってみるとその大変さを身に染みて感じました。

千葉の事業所は人数も多く情報の伝達がうまくいかない事があり準備段階からあたふたするばかりでした。係りの分担、仕事の振り分け等、今までやったことがなくうまくいかないことばかりで行事

の度にみなさんから色々と言われました。そのことを次の行事に生かせれば良かったのですがなかなかうまくいきませんでした。「春を楽しむ会」「七夕祭り」「秋祭り」「大運動会」「クリスマス会」「親子合同新年会」と一年間の行事をやってきましたが、職員、ご家族の方々、ボランティアの方々のご協力もあり無事に終わることが出来ました。特に運動会ではご家族の方や来賓の方も見える大きな行事だったので、予定通り行えるか心配だったのですが、幸いなことに天候に恵まれて日程通りに行え、何より良かったと思います。

この一年間行事係りをやってみて仕事の仕方というものを改めて勉強しました。この一年間が無駄にならないように、これからの仕事の糧にしたいと思います。

色々とご協力頂いた皆様に、この場をかりてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

おおらか学園　森下　尊広

自閉症療育がしたいという夢が叶い、嬉泉に就職することができ、最初の2年間はのびろ学園に配属となり、自閉症療育について学ぶことができました。

入った頃は、ある利用者と食堂掃除をする度に、テーブルの下に潜られ、床を掃くように声を掛けても応じてもらえない事が続いたので自分は嫌われているのではと自己嫌悪におちいったりしました。でも、二か月後に入ってきた実習生とその利用者が食堂掃除をするやりとりで、同じような行動をするのを客観的に見たとき、彼が私を嫌っていたのではなく曖昧な誘いに彼が動き出すきっかけがつかめなくて戸惑っていただけだったことに気づかされました。

また、ある利用者が帰宅日に帰りたい気持ちはあるのにトイレにこだわり、玄関とトイレの間をとりつかれたように走って何度も往復し気持ちの代弁をしても全く耳に入りませんでした。そこで、思い切って体で止めて、気がかりなことがあって気持ちの整理がつかないのではと思い代弁しながら付き合って十分くらいすると段々落ち着き、バスに乗り込んでからは表情も良くご機嫌で帰宅できたことがありました。こういった関わりを通して行動にとらわれすぎて動揺し曖昧な関わりをしたり、本人に届かない代弁をしたりするのではなく、利用者が自分の気持ちを整理したり安心して行動できるよう単純にはっきり伝えたり、体で張り合うことも必要だと実感しました。

少しずつ利用者の問題性が解るようになってくると行動改善の方ばかりに気をとられ『ルールだから』とマジックを片付けてから次の日課に移りなさいと押しつけるような援助が増えた事を反省し、本人の気持ちに添ってプライドを傷つけず、次の日課に移せるようにじっくり関わる大切さを痛感しました。

最近思うのは、療育者と利用者という異なる立場で考えるのでなく、同じ人間として信頼し合い太いパイプで結ばれるようになれば自ずと問題行動は改善に向かうのではないかということです。

利用者と信頼関係を築きながら、視野を広げ実践を深めていきたいと思います。

平成十一年度 社会福祉法人嬉泉 寄付者名簿

田村　匡・杉本一義・石井哲夫
喜多祐荘・高橋和子・待井和江
川原左公・泉　千勢・済田安司
済田順子・済田武志・山口恒子
山口武義・済田陽子・松崎康子
岡田　豊・廣田博子・石原桂子
鈴木勝彦・黒林美江・田部知恵人
岡理佳子・岡　正夫・土谷格三郎
黒田りん子・小川再治・小川昭子
弓木裕一・高村千枝子・小林秀一
野坂　勉・湯浅成子・湯浅　正
石井恭子・石井　遥・石井　光
野田藤武・沢野圭子・大原俊二
河合敏子・田中瑛也・武藤昭子
千葉和子・納土郁子・大村光宏
林　謙光・高橋栄子・平川正夫
盛川輝久・春山晴彦・吉賀敏郎
鹿児島創美・宮脇　修・伊藤裕子
池上嘉信・今宮俊一郎・大野清志
村上皓彦・山口　潔・高山　瑩
矢島機敏・立石新一郎・野田玲二郎
時永康男・田村聰達・露木茂夫
笛田まつ子・大山勝地・桜沢昭司
山室博史・内田哲也・綱川省三
小島　浩・黒澤信子・小林陽子
三宮康夫・本保一義・岩部成善
渋谷六郎・渋谷英子・須田初枝
長谷川幸代子・大田恒子・伊藤正人
村田いづみ・渋谷　仁・大村ヨ子

7ページ3段目に続く

嬉泉の出来事

社会福祉医療事業団 平成12年度 長寿・子育て・障害者基金 助成事業の報告

この度、社会福祉医療事業団より、平成12年度長寿・子育て・障害者基金助成事業の中の高齢者・障害者福祉基金助成金「特別分」の内定をいただきました。これは、介護保険制度等を踏まえ、ボランティア団体等多様な主体が参加した在宅福祉の充実を図るために、従来の施策の枠を越えたきめ細かな在宅福祉事業に対して助成されている事業であり、その中でも特に緊急に充実を図る必要のある高齢者、障害者在宅福祉の推進に関することとして、当法人の申請する「知的障害者の心の相談及び、心のケア・マニュアルを作成する事業」が選ばれました。

知的障害者の問題行動に対し、医学的な見解から治療を施したり、認知発達能力を育てるだけでは決定的な鎮静には至らないことが問われ始め、最近ではこういった問題性に対して皆さんがご存知の通り、心理的・社会的なアプローチからの支えが強く求められています。また、中央児童審議会の「今後の知的障害者・障害児施策の在り方について(平成11年1月25日)」の中でも以下のような検討事項があげられており、特に自閉症においては、これが一層に深刻であることがうかがえます。

『知的障害者・障害児については、より一層適切な医療サービスが受けられやすくする必要があることから、医療サービスの提供体制の充実に向けて、幅広い観点から検討していく必要がある。また、知的障害者・障害児の心のケアの在り方についても検討していく必要がある。

自閉症については、基本的には、知的障害者福祉施策の中でサービスが提供されており、また、医療の必要性に応じて精神保険福祉法で対応しているが、自閉症等生活適応に困難を有する発達障害については、今後更に、心理的、社会的な処遇方法の開発等施策の充実を図る必要がある。』

そこで、我々はこれまで積み重ねてきた経験と技術をもとに、「メンタル・ケア」に重点をおいた相談事業をすすめることで地域生活を営む知的障害者の行動障害を未然に防ぎ、更に、熟練した専門家でないと理解できないという理由で敬遠されがちであった自閉症をはじめとする対応困難な知的障害者の行動障害を裏付けている心理的要因について、これまでに個別的に深めてきたものをできる限り整理してマニュアル化させ、これを一般公開することを目指して、この事業を運営していくことになりました。

実は、この事業には以前お伝えした「石井研究会」の中で有志によって行われた「受容的交流療法」を形にしようとした動きの流れも含んでおり、中座していた研究テーマを医療事業団のお力を借りることで再び形あるものに整えて行こうという期待もこめられているのです。

そして、何よりも、この「心のケア・ワーク」が広く普及されていくことによって関係諸機関及び地域の中で「メンタル・ケア」についての見直しと理解が深まり、これまで対応困難とされている知的障害者の施設処遇及び在宅福祉が充実されていくことが望まれます。

この事業運営につきましては、この先、当法人のホームページにて随時公開していきますので、どうぞご覧になってみてください。

(のびろ学園　五十嵐　猛)

「ほっと　in　ふなばし芸術祭」の報告

2月29日より3月5日までの6日間、船橋市民ギャラリーで全国公募のかたちで開催された。NHKでの紹介もあり入場者も多かったとのこと。学園からは沼倉・一尾・田村さん、保護者では、浜の園さん、袖山さんが来てくれた。職員が行った時にはそんなに人はいなかったとのことでしたが、私が行った時には大勢の人がいました。

アートバンク大賞の常連のかたや障害者美術展では名の通った人の参加も多くレベル的には高かったと思います。めばえ学園卒業の山本頼子さんの作品も3点出展されていました。この芸術祭には初めての参加でしたが、高い評価を多くの出場者から聞くことが出来ました。沼倉さんは「うちが断トツだった」と言っていましたが、

平成１１年度　事業報告

（自）平成 11 年４月１日
（至）平成 12 年３月 31 日

１．法人の概要

主たる事務所の所在地／東京都世田谷区船橋 1-30-9	電話番号／ 03-3426-2323	代表者氏名／ 須藤　祐司
法人認可年月日／昭和 41 年 10 月１日	法人認可番号／厚生省収児第 516 号	設立登記年月日／昭和 41 年 10 月 28 日

２．法人の行う事業

事業の種類		施設種別	名称	施設長氏名	定員
社会福祉事業	第一種社会福祉事業	第二種自閉症児施設	袖ケ浦のびろ学園	山根美江子	60 名
		知的障害児通園施設	子どもの生活研究所めばえ学園	川相　智史	30 名
		知的障害者更生施設	袖ケ浦ひかりの学園	奥村　幸子	44 名
		知的障害者授産施設（通所）	東京都板橋区立赤塚福祉園	友田　篤	40 名
		知的障害者更生施設（通所）	東京都板橋区立赤塚福祉園	友田　篤	50 名
		知的障害者更生施設（通所）	おおらか学園	石橋　悦子	20 名
	第二種社会福祉事業	家庭児童相談事業	子どもの生活研究所	石井　哲夫	—
		知的障害者地域生活援助事業	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ春のひかり	石井　哲夫	4 名
		保育所	すこやか園	島野　雅子	36 名
公益事業		知的障害者生活寮	東京都板橋区立赤塚ホーム	友田　篤	6 名

３．役員等の状況（平成１２年４月１日現在）

役職	名前	職業
理事長	須藤　祐司	（特医）社団嬉泉会　理事長
常務理事	石井　哲夫	白梅学園短期大学　学長
理事	仲村　優一	（学）大乗淑徳学園学術顧問
理事	須藤　祐正	（特医）社団嬉泉会　春日部嬉泉病院　院長
理事	町田　英一	（福）東京都社会福祉協議会　参与
理事	奥村　幸子	（福）嬉泉　袖ケ浦ひかりの学園　園長
理事	山根美江子	（福）嬉泉　袖ケ浦のびろ学園　園長

監事	茂呂　政利	茂呂会計事務所　所長
監事	杉浦　宏章	富士幸産業株式会社　顧問

評議員	外林　大作	横浜市立大学　名誉教授
評議員	小谷　芳正	不動産鑑定士
評議員	板山　賢治	（財）日本障害者リハビリテーション協会　副会長
評議員	山崎　晃資	東海大学医学部　教授
評議員	小沼　康夫	東京福祉商経専門学校　教務部長

評議員	北澤　清司	東海大学健康科学部　教授
評議員	中島　健一	日本社会事業大学社会福祉学部　助教授
評議員	樫根　福二	三宿つくしんぼホーム　施設長
評議員	石井　啓	(福) 嬉泉　事務局長

※理事は全員評議員を兼ねる。

4．理事会・評議員会開催状況

（1）理事会

回	開催年月日	議事内容
第1回	平成11年5月25日	①平成10年度事業報告について　②平成10年度決算について　③定款変更について ④諸規程の一部改正について　⑤評議員人事について
第2回	平成11年6月25日	①東京都指導検査指摘事項の改善報告について
第3回	平成11年9月13日	①就業規則細則の改正について　②赤塚ホーム改修工事請負契約の締結について　③赤塚福祉園・ホーム委託契約の変更について　④運用財産の売却について　⑤収益事業の廃止について ⑥土地の購入について　⑦社会化基金の特別会計化について
第4回	平成11年12月6日	①平成11年度補正予算について　②諸規程の改正について
第5回	平成12年3月21日	①平成11年度補正予算について　②平成12年度事業計画について　③平成12年度予算について　④諸規定の一部変更について　⑤理事・評議員の委嘱について　⑥理事長の選任について　⑦常務理事の指名について　⑧千葉県監査指摘事項の改善報告について　⑨園長人事について

（2）評議員会

回	開催年月日	議事内容
第1回	平成11年5月25日	①平成10年度事業報告について　②平成10年度決算について　③定款変更について ④諸規程の一部改正について　⑤評議員人事について
第2回	平成11年6月25日	①東京都指導検査指摘事項の改善報告について
第3回	平成11年9月13日	①就業規則細則の改正について　②赤塚ホーム改修工事請負契約の締結について　③赤塚福祉園・ホーム委託契約の変更について　④運用財産の売却について　⑤収益事業の廃止について ⑥土地の購入について　⑦社会化基金の特別会計化について
第4回	平成11年12月6日	①平成11年度補正予算について　②諸規程の改正について
第5回	平成12年3月21日	①平成11年度補正予算について　②平成12年度事業計画について　③平成12年度予算について　④諸規定の一部変更について　⑤理事・監事の選任について　⑥評議員の委嘱について　⑦千葉県監査指摘事項の改善報告について　⑧園長人事について

総括貸借対照表

平成12年 3月31日現在

社会福祉法人 嬉泉

（単位：円）

	科目	合計	本部	めばえ学園	柚ケ浦のびろ学園	柚ケ浦ひかりの学園	赤塚福祉園（授産）	赤塚福祉園（更生）	おおらか学園	すこやか園	子どもの生活研究所	グループホーム 春のひかり	赤塚ホーム	運用財産活用事業
資産の部	1. 流動資産	245,914,073	99,153,193	7,072,426	40,051,840	45,589,275	8,141,099	19,414,459	4,000,013	6,171,030	4,297,558	3,738,488	8,284,692	
	現金	367,831	34,985	29,638	37,073	34,500	26,679	21,167	70,601	39,595	49,598		23,995	
	預金	217,534,433	94,216,512	6,864,438	29,731,282	35,001,151	7,569,410	19,338,719	3,856,402	6,067,043	3,596,911	3,161,655	8,130,910	
	有価証券													
	立替金													
	仮払金													
	前渡金													
	前払費用	4,347,205	4,347,205											
	貸付金	622,841	444,491	178,350										
	未収金	22,659,763			10,283,485	10,389,624	545,010	54,573	73,010	64,392	651,049	468,833	129,787	
	その他の流動資産	382,000	110,000			164,000						108,000		
	2. 固定資産	3,106,194,363	2,968,934,217	3,258,680	37,031,852	39,634,708	11,800,000	24,700,000	3,938,179		2,474,415	2,422,312	12,000,000	
	建物	2,019,440,562	2,019,440,562											
	固定資産物品	200,648,042	116,887,896	3,258,680	37,031,852	34,634,708			3,938,179		2,474,415	2,422,312		
	土地	752,341,375	752,341,375											
	建設仮勘定													
	権利													
	投資有価証券	6,398,962	6,398,962											
	その他の固定資産	127,365,422	73,865,422			5,000,000	11,800,000	24,700,000					12,000,000	
	資産合計	3,352,108,436	3,068,087,410	10,331,106	77,083,692	85,223,983	19,941,099	44,114,459	7,938,192	6,171,030	6,771,973	6,160,800	20,284,692	
負債の部	1. 流動負債	90,964,408	21,610,481	2,093,206	20,926,341	19,304,718	4,092,591	12,309,002	4,000,013	1,945,504	1,145,820	746,705	2,790,027	
	経常資金借入金													
	未払金	80,543,507	20,124,516	1,626,493	17,694,283	16,859,171	3,690,487	11,420,400	3,269,544	1,722,848	869,652	746,705	2,519,408	
	未払費用													
	仮受金													
	預り金	9,798,060	1,307,615	466,713	3,232,058	2,445,547	402,104	888,602	293,088	222,656	269,058		270,619	
	前受収益													
	本部会計借入金	444,491							437,381		7,110			
	施設会計借入金	178,350	178,350											
	その他の流動負債													
	2. 固定負債	383,699,000	383,699,000											
	設備資金借入金	383,699,000	383,699,000											
	3. 引当金	116,482,652	62,982,652			5,000,000	11,800,000	24,700,000					12,000,000	
	退職給与引当金	62,982,652	62,982,652											
	人件費引当金	29,800,000					2,800,000	18,000,000					9,000,000	
	修繕引当金	13,200,000				2,500,000	5,000,000	3,700,000					2,000,000	
	備品等引当金	10,500,000				2,500,000	4,000,000	3,000,000					1,000,000	
	負債合計	591,146,060	468,292,133	2,093,206	20,926,341	24,304,718	15,892,591	37,009,002	4,000,013	1,945,504	1,145,820	746,705	14,790,027	

純財産の部	1. 基　金	3,012,956,260	2,929,196,114	3,258,680	37,031,852	34,634,708			3,938,179		2,474,415	2,422,312		
	基本財産基金	2,414,050,062	2,414,050,062											
	運用財産基金	598,906,198	515,146,052	3,258,680	37,031,852	34,634,708			3,938,179		2,474,415	2,422,312		
	2. 積立金	▲376,010,000	▲376,010,000											
	建設積立金													
	固定負債積立金	▲383,699,000	▲383,699,000											
	その他の積立金	7,689,000	7,689,000											
	3. 繰越金	124,016,116	46,609,163	4,979,220	19,125,499	26,284,557	4,048,508	7,105,457		4,225,526	3,151,738	2,991,783	5,494,665	
	前期繰越金	116,035,608	43,895,359	3,956	21,657,057	22,144,019	8,727,258	12,612,640			593,393	469,603	5,932,323	
	当期繰越金	7,980,508	2,713,804	4,975,264	▲2,531,558	4,140,538	▲4,678,750	▲5,507,183		4,225,526	2,558,345	2,522,180	▲437,658	
	純財産合計	2,760,962,376	2,599,795,277	8,237,900	56,157,351	60,919,265	4,048,508	7,105,457	3,938,179	4,225,526	5,626,153	5,414,095	5,494,665	
負債・純財産合計		3,352,108,436	3,068,087,410	10,331,106	77,083,692	85,223,983	19,941,099	44,114,459	7,938,192	6,171,030	6,771,973	6,160,800	20,284,692	

総括収支計算書

社会福祉法人 嬉泉

平成11年 4月 1日から平成12年 3月31日まで

（単位：円）

科目		合計	本部	めばえ学園	柚ケ浦 のびろ学園	柚ケ浦 ひかりの学園	赤塚福祉園（授産）	赤塚福祉園（更生）	おおらか学園	すこやか園	子どもの生活研究所	グループホーム 春のひかり	赤塚ホーム	運用財産活用事業
収入の部	事業収入	18,466,080									18,466,080			
	措置費収入	471,595,341		65,348,548	219,249,790	169,732,811			17,264,192					
	運営費収入	34,236,110								34,236,110				
	補助金収入	840,212,615	12,021,250	15,379,481	152,805,339	153,335,217	97,516,200	275,518,200	26,734,663	28,480,405	6,135,860	3,504,000	68,782,000	
	利用料収入	8,750								8,750				
	利用者負担金収入													
	寄付金収入	120,975,290	116,648,400	2,970,000	445,988	844,902		66,000						
	繰入金収入	31,026,453	18,719,884						12,306,569					
	授産収入	2,430,111					2,430,111							
	雑収入	98,295,996	81,903,127	360,286	3,532,153	5,534,426	392,752	1,158,962	44,179	12,141	485,574	1,969,266	653,130	2,250,000
	引当金戻入													
	設備資金借入金収入	30,000,000	30,000,000											
	積立金戻入													
	収入合計	1,647,246,746	259,292,661	84,058,315	376,033,270	329,447,356	100,339,063	276,743,162	56,349,603	62,737,406	25,087,514	5,473,266	69,435,130	2,250,000
支出の部	事務費支出	1,171,954,968	50,054,999	74,289,425	313,929,310	272,149,973	83,803,895	197,731,646	52,916,388	52,917,361	15,153,986	1,820,099	57,187,886	
	事業費支出	204,837,132		4,011,844	60,635,518	49,356,845	11,983,522	68,518,699	3,433,215	4,866,319	900,183	1,130,987		
	授産支出	2,430,396					2,430,396							
	元利償還金	69,511,902	69,511,902											
	繰入金支出	31,026,453	12,306,569	781,782	4,000,000	3,800,000				728,200	6,475,000		684,902	2,250,000
	雑支出	6,847,387	6,847,387											
	固定資産取得費	117,858,000	117,858,000											
	引当金繰入	34,800,000					6,800,000	16,000,000					12,000,000	
	積立金繰入													
	予備費													
	小計	1,639,266,238	256,578,857	79,083,051	378,564,828	325,306,818	105,017,813	282,250,345	56,349,603	58,511,880	22,529,169	2,951,086	69,872,788	2,250,000
	当期繰越金	7,980,508	2,713,804	49,975,264	▲2,531,558	4,140,538	▲4,678,750	▲5,507,183		4,225,526	2,558,345	2,522,180	▲437,658	
	支出合計	1,647,246,746	259,292,661	84,058,315	376,033,270	329,447,356	100,339,063	276,743,162	56,349,603	62,737,406	25,087,514	5,473,266	69,435,130	2,250,000

作品集が9冊、ポストカードが85枚売れていたのでうなづけました。
黒林さんの作品を譲ってほしいという方からの問い合わせもありました。（非売品であったため丁重に断り、今後作品展等の連絡をすることにしました。）
次回もこの芸術祭には参加したいと思います。
（ひかりの学園　戸屋　隆）

『おおらか喫茶店』

『いらっしゃいませ!!』『ありがとうございました』……元気な声がおおらか学園の食堂に響いています。毎週金曜日の2時半から3時までの30分間、おおらか学園の食堂が喫茶店に早変わりします。まだ、緊張しながらも一生懸命に注文を取っている人や、お客様と会話を楽しみながら思わず仕事を忘れ、席について話し込んでしまう人、又、少しとまどいながらも少しずつ喫茶店の雰囲気を楽しんでいる人など、本格的な開店へ向けて現在試行段階の喫茶店では、いろいろな光景が見られています。
昨年の6月におおらか学園がスタートして以来、作業活動の一貫として年度の後半から「喫茶店」の活動を始めました。当初は作業プログラムの一つとして行っていたお菓子作りですが、参加している人それぞれの意欲が高まってきたことから、徐々に「仕事」としての要素も取り入れるようになりました。特に、シフォンケーキは、かぼちゃ、抹茶、バナナ、コーヒー、紅茶などの味のバリエーションを変えながら継続して取り組んできたものであり、技術的な向上がかなり見られるようになってきました。その経過の中、将来的には本格的に販売出来る品質を目指していきたいと考え、まずはおおらかの食堂を使って、喫茶サービスという形での試みを始めることになりました。今は試行の段階として、子どもの生活研究所の職員が主なお客様となり、ケーキと飲み物をセットにしたサービスを行ない、練習を重ねています。
喫茶店では、日常さまざまな形でおおらか学園の仕事を応援したり、支えてくれている事務所や厨房、環境整備を担当してくれている職員、そしてめばえ学園・こぐま学園・すこやか園など他の部署の職員がお客様としてきてくれています。「喫茶」という場面を通して利用者の方の普段の様子を見ていただいたり、又やりとりを持つ中で少しずつお互いを知ってもらい交流を重ねるなどの大切な機会であると感じています。現在は、利用者の方も回数を重ねる中で、接客にも少しずつ慣れてきて『これは自分の仕事』という自覚を持って取り組んでいたり、又、いろいろな人達と会話が出来ることを楽しみにしたり、期待している方もいます。お客様になってくれた職員から「おいしかった」「頑張っているね」という言葉を掛けられることが、今は何よりも利用者の方のやる気を引き出しているように思います。
将来的には地域の人との交流も考え、有料でのサービスを少しずつ目指し、それぞれの人達がこの喫茶店を通して、働く意欲や楽しみ、又自信を積み重ねていけることを願っています。
（おおらか学園　樋口美津子）

5ページ4段目より続く

伊藤静子・佐藤純子・三好静明
伊達宗禮・鈴木政次郎・沖　陽輔
北野　進・岩本亮子・岩谷紀子
丸山武夫・齋藤政満・浜ノ園利夫
竹田　健・高橋良一・高城義太郎
伊藤満州雄・石塚伸一・岡部礼子
石川信子・長岡　格・小林一二三
原田和幸・相川喜久・山内参二
沼田迪彦・今井久仁子・田中雄一
廣田照子・松尾　実・北原雄治
入沢誠八・吉澤一夫・黒野　光
沓掛長生太郎・今西正幸
林　一男・柏木道子・小松京子
村岡精一・瀬戸智夫・大塚ちあき
清水　敏・近藤房枝・原田和子
解良明子・持田才子・木村元正
木村珠江・沢野　洋・金井秋義
小川きみ・石岡幸則・相澤昭八郎
柴田昭三・清水　正・横溝四郎
水口和恵・栗原利治・渡辺　正
茂木勝衛・小山悦夫・山本博明
喜多山肇子・喜多山正信・高橋恒二郎
中尾新之・三宅　正・石渡　誠
南村真智子・佐藤ひろ子・村田堅一
山岸敏男・早瀬　清・土谷　新
清水正弘・浜田富江・小原瑞穂
奥田けい・藤原治嗣・野田康生
原　京子・二木俊彦・山本洋子
工藤成一・斎藤　穂・秋山信靖
新妻主計・高田昇一・内田癸代志
菊川明雄・水島和夫・早瀬　進
荒井恒夫・管尾伸一・市川すみ
舘　裕・賀戸文彦・井出守安
桃原征男・前川長慶
シュウゾウ
東京都共同募金会
日本保育研究会
嬉泉後援会
宇治市保育所協議会
千歳丘教会
巣鴨ときわ協会
東洋英和女学院
㈱モルトベーネ
（順不同・敬称略）

ありがとう
ございました。

『アトリエAUTOS』の業績

平成9年2月　持田、浜の園さん、アートバンク登録審査を受け合格し、作家登録される。
3月　厚生省の機関紙「厚生」の表紙に持田さんの「トラフグ」が採用される。
7月　「コロニー東京」の表紙に浜の園さんの「皇帝ペンギンの親子」が採用される。
8月　損保労連議案書表紙に浜の園さん「南国の鳥」が採用される。
10月　第12回障害者総合美術展に出展（日本チャリティ協会主催）
11月　障害者アートバンク大賞アサヒビール奨励賞を持田さん受賞（新人賞）

平成10年1月　「アトリエAUTOS」発足
長野アートパラリンピック公募展に応募。入選ならず。
「コロニー東京」の表紙に持田さんの「ツマイサキ」が採用される。
富士ゼロックスホームページ6月分に浜の園さんの「イソギンチャク」が採用される。
5月　デザイン誌「ザ・チョイス」に持田、浜の園さん応募。入選ならず。
7月　小学館よりアトリエAUTOS作品集「こころの色・心のかたち」発刊。5種類のポストカード制作発売。
8月　銀座のギャラリー「青羅」にて第1回作品展を開催。
11月　Global Vision 11月号の表紙に浜の園さんの「南国の鳥」が採用される。
障害者アートバンク大賞アサヒビール奨励賞を浜の園さん受賞（新人賞）

平成11年6月　月刊フィランソロピー6月号の表紙に浜の園さんの「にわとりアラジン」が採用される。
7月　月刊フィランソロピー7月号の表紙に持田さんの「トラフグ」採用される。
9月　陶芸用ガス窯購入。
10月　2000年アトリエAUTOSポストカードカレンダーを発売する。
「ラポール芸術祭」（横浜）にて第2回アトリエAUTOS作品展開催。
11月　「月刊福祉」11月号に浜の園さん「南国の鳥」掲載される。

平成12年1月　篠原佳年著「生死同源」の表紙に浜の園さんの「ニワトリ」が採用される。出版社『幻冬舎』。AUTOSの作品集を見たデザイナーから依頼される。
「ノーマライゼーション」1月号の表紙に浜の園さんの「南国の鳥」が採用される。
2月　「ノーマライゼーション」2月号の表紙に浜の園さんの「ぺんぎん」が採用される。
3月　「ほっと in ふなばし芸術祭」出展。

ひかりのタイムス

独立第37号

『アトリエAUTOS』は、火～金曜日の10時～12時と14時～16時に、創作活動をしています。陶芸では、動物や竜をかたどった粘土を基礎にしたり、壺に自分のイメージした物を付けたり…、と個性にあふれた創作をしています。絵画でも、クレパスを思いのままに使って創作をし、みる人を飽きさせません。今後も『アトリエAUTOS』の作品が、多くの人に感動を与えていくと思います。